

第14回安全衛生大会を開催しました

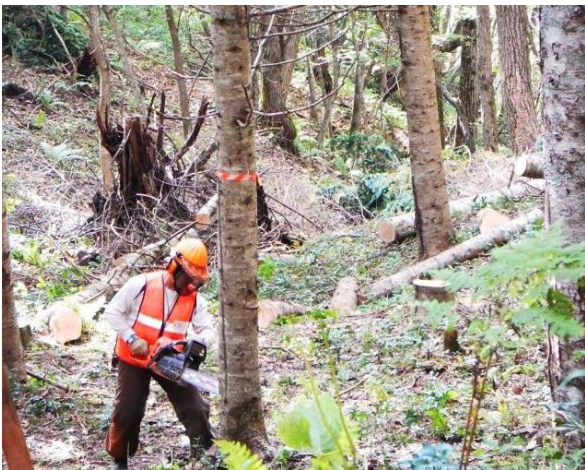
当社では毎年1回、安全衛生大会を開催しています。第14回となる今年は、10月4日（火）～5日（水）に北海道の「三井物産の森」（似湾乙山林、沙流山林）での作業現場を中心に開催しました。

参加者は社長以下、各事務所・事業所の安全衛生委員を中心に総勢43名。山林所有者である三井物産（環境・社会貢献部）からは部長が出席しました。

初日のテーマは「チェーンソーによる伐採」と「かかり木処理」です。

一行は、似湾乙山林で、林業・木材製造業労働災害防止協会北海道支部安全指導員から実地指導を受けました。平取山林事務所の事業所長と同所員がチェーンソーによりトドマツを1本ずつ伐採した後、安全指導員から、安全確認の所作、伐採方法の基本（受け口、追い口の切り方等）について指導がありました。更に2本ずつ計4本を伐採、この内2本については「かかり木」状態をつくり、その処理方法について説明が行われました。ベテランの現業社員による伐採であり安全指導員からは大きな改善指摘はありませんでした。安全指導員から指摘があった安全性を高める上で重要と考えられることは次の3点であり、更に、『基本を愚直に守ること』の大切さを銘じられました。

- ① 決められた合図をはっきりと行うこと：作業開始前、伐採前、伐採終了時の3回。
- ② 受け口、追い口の切り込み幅と段差：受け口は伐根直径の1/4～1/3以上、追い口は受け口の高さの2/3程度の位置を水平に切り込むこと。
- ③ 適切なツルを残すこと：安全面と狙った方向に伐採する上でツルは伐根直径の1/10程度を目安に残す。



チェーンソーによる伐採作業



安全指導員から現地指導

現場講習を終えた後、安全指導員による講義と小テストを行いました。その後、5グループに分かれて伐採や木材の積込みなどの具体的事例についてリスクアセスメント実習を行い、初日の予定を終了しました。



安全指導員による講義



リスクアセスメント実習

2 日目は沙流山林で作業現場（高性能林業機械ハーベスタによる伐採、伐採木の集材現場）の安全パトロールを行いました。作業現場のみならず、消火器や各種資材の整理整頓状況、燃料の保管方法、注意喚起の為の、のぼり旗などの掲示が適切に行われているかと言った点を確認しました。



ハーベスタによる伐採作業



安全パトロールの様子

安全パトロール終了後、パトロール結果について 5 グループに分かれて討議し、良かった点や改善点について意見を纏め、各グループから発表を行いました。全般的にしっかりと準備され、ルールに則った作業が行われていることが確認されました。これは年 1 回の安全衛生大会の成果というよりも、日頃の安全衛生活動の成果がそのまま反映されていると感じられるものでした。普段やっていないことは付け焼刃でやっても直ぐに見抜かれると思われるからです。

グループ討議後に行われた講評では、年に一度、全国から集まって現場を見て、意見交換・情報交換をすることの意義、基本を愚直に、手を抜かずにやり続けること、日頃の健康管理の大切さ等についての指摘がありました。尚、今年度の当社の労働災害の殆どはハチ刺されですが、三重県・三戸事業所員が持参したハチ刺されガードウェアの現物を見ながら意見交換しました。こうした横の連携を通じて、更に安全作業に努め、来年までの 1 年間、労災ゼロを目指していくことを誓い合いました。



2 日目の大会の様子

以上